

“ヒバクシャ”の心境から戦争の悲惨さを抉り出す、別役実の伝説的傑作。
気鋭の演出家 EMMA による戦争と平和への新たな問いかけ

SPAC 秋→春のシーズン 2024-2025 #2 『象』

プレス関係各位

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

SPAC では毎年 10 月から 3 月にかけて、古今東西の名作を注目の演出家たちによる現代演出でお届けする「秋→春のシーズン」を実施しています。今シーズン、『イナバとナバホの白兔』に続く 2 作品目は、SPAC 初登場となる注目の若手演出家、EMMA (旧・豊永純子) による新作『象』です。

■不条理劇の巨匠・別役実が 60 年代の不安を映した初期の傑作、『象』。

人間社会の不安や空虚を独特に描く作風で、童話やエッセイなど幅広い執筆活動を展開し、日本の不条理劇を確立させた劇作家・別役実。早稲田大学在学中に演劇と出会い、鈴木忠志(初代 SPAC 芸術総監督)らと新劇団「自由舞台」を結成。1962 年にその旗揚げ公演として初演された『象』は、叔父と甥のすれ違う会話を通して「ヒバクシャ」の心情や構造的差別に鋭く切り込み、のちにアングラ演劇と呼ばれる前衛的な表現の先駆けとなりました。この歴史的傑作に、地域社会や歴史の丹念なりサーチから作品を立ち上げてきた新進演出家 EMMA が挑みます。

■戦争の記憶を掘り起こし、12 月の静岡公演へ向けて深化。

SPAC『象』は、次世代の日本の演劇人と共同で作品を創造することを目的とした「桃太郎の会」*の創作作品の一つとして、去る 9 月に富山県利賀芸術公園「SCOT サマー・シーズン 2024」にて初演されました。EMMA は、戦争の実体験を持たない世代として作品に向き合い、演劇を“伝承の手段”と捉え、戦争の記憶をつなぐことを重視しました。同時に、SPAC 随一のベテラン俳優との協働で作品の背景を掘り下げ、6人の登場人物それぞれが抱える苦悩や葛藤に着目しながら、会話における身体性を突き詰めています。戦争というテーマから現代にも通じる普遍的な感情や価値観について問いかけ、人間の深層に迫る本作。静岡公演では、空間に合わせて演出を再構築し、初演時に一部カットされたシーンも復活させた完全版となります。

*桃太郎の会: 鈴木忠志(富山県南砺市)、宮城聡(静岡県静岡市)、平田オリザ(兵庫県豊岡市)、中島諒人(鳥取県鳥取市)が、2022 年に設立した、次世代の日本の演劇人と共同で作品を創造する会。各地域で制作した作品を合同で利賀のユニークな劇場群で上演する企画。

■観客と対話する、【平和学習プログラム】を企画・実施。

被爆者を扱った作品『象』は、戦争の記憶が風化し、原爆被害者への関心が薄れていく社会状況を際立たせています。このことは現代にも通じ、「忘却」の恐ろしさを問いかけます。今、国際情勢の緊迫化により核兵器の脅威が高まる一方、原爆投下から 79 年が経過し、その惨禍は遠い歴史上の出来事になりつつあります。そのような中で、2024 年に日本原水爆被害者団体協議会(被団協)がノーベル平和賞を受賞したことは、世界に大きなインパクトを与えました。この機会に改めて「平和」について考えるべく、**広島から家族伝承者をお招きした講話の開催などの【平和学習プログラム】**を企画いたしました。ぜひこちらの企画にもご注目ください。(詳細は裏面をご覧ください。)

創作ビハインド
演出家コメントムービーはこちら▶



象

【新作】 演出: EMMA (旧・豊永純子) / 作: 別役実

舞台美術デザイン: 吉田裕梨 / 照明デザイン: 花輪有紀 / 音響デザイン: 澤田百希乃 / 衣裳デザイン: 清千草

出演: 阿部一徳、小長谷勝彦、榊原有美、牧山祐大、吉植荘一郎、渡辺敬彦 [五十音順]

<上演時間: 90 分程度を予定> 日本語上演 / 英語字幕

■公演日[計 4 公演]: 12 月 7 日(土) 18:30 開演 / 8 日(日)、14 日(土)、15 日(日) 各日 14:00 開演

■会場: 静岡芸術劇場(グランシップ内)

◎演出家プロフィール: EMMA (旧・豊永純子)



演出家。1988 年神戸市生まれ。農村歌舞伎保存会や地域の方々と共に創作するなど、文化や歴史をリサーチし、その地域に寄りそいながら制作することを大切にしている。近作は、劇団劇作家『玄海灘』『短篇集「覧古考新」』(2024 年 / 演出)、壁なき演劇センター『Light on Tennessee Williams』(2023 年 / 作・演出)、ワールド・シアター・ラボ『ロッテルダム』(2023 年 / 演出)など。京都芸術大学 2024 年度劇場実験として、EMMA が代表を務める共同研究が採択を受け、島にフィールドワークへ行くなど創作中。

『象』に関するお問い合わせや取材のご希望は、
SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当「佐藤美咲・坂本彩子」までご連絡下さい。
TEL: 054-203-5730 (静岡芸術劇場) / FAX: 054-203-5732 / E-mail: koho@spac.or.jp



◎あらすじ:

原爆で背中にケロイドを負い入院中の「病人」のもとへ甥が訪ねてくる。「病人」はかつてその背中のケロイドを街頭で見せ、ヒロシマの様子を語り喝采を浴びていた。また元気になって町で喝采を浴びることを願い情熱的に生きようとするが、対して甥は、「ヒバクシャ」の自分たちはただ静かに死を迎えた方がいいと考えている。ついには甥も発病し、「病人」の隣のベッドへとやってきた。対照的な考えをもつ二人を軸に、とりまく「病人の妻」「医者」「看護婦」「通行人」たちとの関係から見えるのは「ヒバクシャ」と社会の問題。ある雨の日、「病人」は再び町へ出かける決意をするが――。

チケット <好評販売中!>

●料金(税込/全席指定)

一般:4,200円

U25・学生割引:

[25歳以下および大学生・高校生]2,000円

[高校生以下]1,000円 *その他各種割引あり

チケットお取り扱い

SPAC チケットセンター

TEL:054-202-3399 (10:00~18:00, 休業日を除く)

ウェブ予約 <https://spac.or.jp/ticket>

関連企画【平和学習プログラム 他】

<会期前~>

◎~家族伝承者による被爆体験講話を聞く~

広島から被爆体験を語り継ぐ家族伝承者をお招きし、講話を行います。家族から受け継いだ被爆体験や実相をお話しいただくほか、『象』出演俳優による本作のリーディングや演出・EMMAのファシリテーションによる質疑応答の時間も設けます。

▷11月28日(木) 13:00~14:30(12:45 開場)

会場:静岡大学 静岡キャンパス 共通教育L棟 201

定員:50名(参加無料/当日参加可)

被爆体験伝承者等派遣事業(広島原爆死没者追悼平和祈念館)

企画:SPAC-静岡県舞台芸術センター

後援:国立大学法人 静岡大学

●【ロビー展示】「原爆と人間」展

「原爆と人間」展を劇場ロビーにて開催。静岡県の被爆者が、自らの体験を元に描いた絵のパネルと、被爆者から体験を聞いた広島市立基町高校生が描いた絵のパネルを合わせて展示します。

▷12月1日(日)~15日(日)/入場無料

(10:00~18:00/7日(土)のみ 21:00まで)

会場:静岡芸術劇場 1F ロビー

協力:静岡県原水爆被害者の会

稽古場取材もお待ちしております!

日時:11月29日(金)~12月5日(木)13:00~18:00

※12月6日(金)はゲネプロ(18:30開始)を予定

会場:静岡芸術劇場

<会期中>

◎静岡の戦争の記憶を巡る街歩きツアー

観劇前に静岡市街地・駿府城公園の周辺に点在する静岡空襲などの戦跡を巡ります。

▷12月14日(土)・日本語ツアー【A】

15日(日)・英語モニターツアー【B】

9:50 集合~12:30 解散

各日定員:15名(先着順/要予約)

参加費:【A】一般1,000円、高校生以下無料、【B】無料

街歩きルート:

静岡平和資料センター【集合場所】→埋め立てられた駿府城三ノ丸堀→静岡県庁 別館 21階 富士山展望ロビー→静岡赤十字病院 前(焼け残った楠)→静岡銀行本店→不去来庵→明泉寺(焼け残った蘇鉄)→矢澤煉瓦蔵→静岡市役所 本館→静岡御用邸跡→静岡市歴史博物館(葵文庫跡)【解散場所】

※【B】集合場所は静岡市歴史博物館(葵文庫跡)となります。

協力:静岡平和資料センター、NPO法人 静岡市観光ボランティアガイド 駿府ウェイブ

●スペシャルトーク

「桃太郎の会」参加のアーティスト4名が、利賀芸術公園での「SCOT サマー・シーズン 2024」、および各拠点での上演を経て静岡に集まり、トークを展開します。

▷12月8日(日) 終演後(参加無料/予約不要)

出演:EMMA(『象』演出)、瀬戸山美咲(『野火』演出)、

堀川炎(『野火』演出)、福永武史(『象』演出)

司会:宮城聡(SPAC 芸術総監督)

令和6年度日本博2.0事業(委託型)

主催:公益財団法人利賀文化会議、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁 共催:公益財団法人静岡県舞台芸術センター